協会だより

第39号

令和元年10月1日発行

福岡県立学校事務職員協会

会　長　の　挨　拶

「令和の時代　不易と流行」

福岡県立学校事務職員協会　会長　佐伯　伸

今年度、武田前会長の後任として会長に就任しました佐伯と申します。どうぞよろしくお願いします。

５月に「平成」から「令和」へと元号が変わりました。「初春の令月にして、気淑（よ）く風和らぎ、梅は鏡前の粉（こ）を被（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香を薫（かをら）す。」

梅の開花と春の訪れを喜び詠まれた万葉和歌32首につけられたこの序文が新元号の由来だそうです。和歌が詠まれたのは今から1300年前の奈良時代。作者ではと言われる大伴旅人は、大宰師（大宰府の長官）として筑紫に滞在したこともある歌人。同じ福岡県に住む私たちにとって、「令（とてもよい、めでたい）」の元号への採用に何か吉兆めいた「縁」を感じ、喜ばしいかぎりです。ぜひ「和」をもって争いのない平穏な時代になってほしいものです。

さて昨年夏は西日本豪雨災害と記録的猛暑の対応に追われました。今年は、平年より少し遅い梅雨明けでしたが、ほっとしたのも束の間、８月末に秋雨前線の影響で北部九州に記録的大雨が降り各地で浸水被害が発生し全国ネットで放映されました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。最近は「記録的短時間」「特別警報」「線状降水帯」「避難指示」「警戒レベル4」といった生死にかかわる気象・災害用語を頻繁に見かけるようになりました。また天候不順により記録的豪雨が突然発生することも多いことから、通学生徒の安全確保のため、気象情報から片時も目が離せなくなりました。

次に社会に目を向けますと、少子高齢化に伴う人口減少と過疎化が更に進み、人手不足が深刻になりつつあります。その影響もあってか、ついに高校新卒の求人倍率が大学新卒の求人倍率を抜きました。また学校現場においては、「当たり前」と思われていた事が、「当たり前」ではなくなってきました。私費会計、指定物品、PTAや同窓会といった任意団体、朝課外等、それら経費の適正な管理は「当たり前」ですが、今やその制度や対応がマスコミに取り上げられ、SNSで要不要、善し悪しの議論がなされます。40年前、県立高校の生徒でそれを「当たり前」と信じていた私には衝撃以外の何者でもありません。これからの学校は、様々な価値観を認める「多様性」や「選択肢」が求められ、経緯の「透明性」に加え、内容の報告と責任を負う「説明責任」が要求されます。今後これまでのセオリーが当てはまらない、正解のない世界に近づくと言われています。個人の資質として「正解がない事態に耐える力（ネガティブ・ケイパビリティー）」や、「折れない心（レジリエンス）」も身につける必要があります。

話を少し変えますが、京都に「百味會（ひゃくみかい）」なる組織があります。100年以上つづく老舗67店舗からなる「一名物・一店」の原則の下、結成された食に関する交流会です。京都ではなじみ深い、八つ橋（聖護院）や羊羹（とらや）といった有名店ばかりです。 今年８月にNHKで放映されましたので、ご覧になった方も多いと思います。あこがれのブランド店ばかりで経営に何の不安があ

ろうかと一見思いますが、番組の中では、京都に押し寄せる外国人客の足が老舗に向かず、店の将来への危機感から、新しいスタイルで外国人客や新しいお客を呼び込み「のれん」を守ろうとする若社長と、昔ながらのやり方で伝統の「のれん」を守ろうとする先代社長（父親）との確執が描かれていました。「不易（ふえき）か、流行か」「（時代の流れにかかわらず）変えてはいけないもの」と「（時代の流れに寄り添い、時に時代の先を読み）変えなくてはならないもの」を考えさせられる番組でした。

戦後まもなく産声をあげた福岡県立学校事務職員協会ですが、名称や組織を変えながら今年で71年目を迎えました。そして今春も多数の若い新規採用者を迎えることができました。組織としての「新陳代謝」が進む中、若い会員の皆さんにとって仕事と人生（ライフ・ステージ）のモデルでもある中間層・先輩職員の不在は、具体的目標を見失い、身近な相談者の不在を意味するものかもしれません。是非、各地区での研修会や協会活動に参加して、よきモデルやよき相談者を見つけていただきたいと思います。そして新しい感性を吹き込んでいただきたいと思います。来年6月には、本県での10回目となる、第68回九州協議会研究大会を福岡市で開催します。新しい元号の下、新しい時代にふさわしい研究大会となりますよう皆様のご協力をよろしくお願いします。

各研究大会等

◎福岡県立学校事務職員協会研究発表会並びに総会

開催日　令和元年5月31日（金）

会　場　福岡リーセントホテル

【研究発表会】

1　研究発表

研究発表①

「将来構想検討委員会（北九州地区事務研究委員会）答申について」

発表者　門司学園中学校　　主任主事　　濵地　優衣

研究発表②

第67回全国公立高等学校事務惻隠協会九州協議会研究大会（宮崎大会）発表

「学校事務職員の現状と課題、今後の改善に向けて

～ワークライフバランス実現のために仕事とのつきあいかたを考える～」

筑後地区事務研究委員会

発表者　折尾高等学校　　主任主事　　権藤　太郎

　　三池高等学校　　主事　　西田　和樹

研究発表③

第72回全国公立高等学校事務職員研究大会（兵庫大会）第2分科会発表

「ワークライフバランス　～意識を変える～」（概略版）

筑豊地区事務研究委員会

発表者　直方特別支援学校　　事務長　　佐々木　志津子

　　鞍手竜徳高等学校　　事務主査　　野村　一生

２　研究部活動報告

３　地区事務研究委員会活動報告

【総会】

３名の来賓をお迎えし開催されました。福岡県教育庁教育総務部副理事兼総務企画課谷本課長からご祝辞をいただきました。令和元年度新規採用職員等の自己紹介が行われ、続いて新役員の紹介、評議員、選挙管理委員の紹介が平形副会長から行われました。

議案については、全て提案どおり議決されました。

議事運営する議長団

【その他】

旧協会役員10名のうち、５名の方に御出席いただき、感謝状と記念品が贈呈されました。旧役員の方々におかれましては、大変お疲れ様でした。

来年度の総会は、令和２年６月19日（金）、第68回全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会（福岡大会）終了後にアクロス福岡にて開催予定です。

◎第67回九州協議会研究大会並びに総会

開催日　令和元年６月12日（水）～ 14日（金）

会　場　宮崎市民プラザ

宮崎県協会長挨拶

九州・沖縄各県から257名の参加があり、本県からは46名の参加がありました。

本県からは、筑後地区研究委員会が「学校事務職員の現状と課題、今後の改善にむけて～ワークライフバランス実現のための仕事とのつきあいかたを考える～」という題で発表を行いました。アンケートを基に事務職員の現状とその背景の分析結果からワークライフバランスの実現に向けて各自が業務の効率化に取り組むことや日頃から職員間のコミュニケーションを図ることで意識の共有と仕事の効率化を図りより多くの事務職員がワークライフバランスを実現する方法としてたいへん有意義な発表でした。

本県発表者

本県被表彰者

また、特別講演では、霧島酒造株式会社代表取締役専務　江夏　拓三 氏により「夢をかたちに。」という題でプロジェクターを使用し手書きのイラストやコメントを映しながら会社や従業員への熱い思いに触れながらの講演でした。

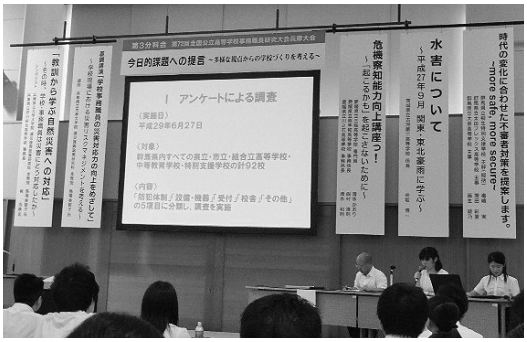
功労者表彰では、本県から16名の方々が表彰されました。

来年度は、令和２年６月17日（水）～６月19日（金）アクロス福岡で開催されます。

◎第72回全国公立高等学校事務職員研究大会

開催日　令和元年７月24日（水）～26日（金）

会　場　兵庫県立武道館



今年度は兵庫県姫路市で開催され、本県からは53名の参加がありました。

今大会では、勤務年数が概ね５年以内の若手を対象とした特別分科会が、「これからの学校事務職員に期待されるもの」をメインテーマに開催されました。本県からも新進気鋭の３名が参加しています。詳しい内容については、参加者による報告をご覧ください。

第１日目は、文部科学省初等中等教育局長尾篤志先生による講話「教育改革の動向について」、そして兵庫県立歴史博物館の堀田浩之氏による記念講演「姫路城の個性を探る」がありました。その後、総会が行われました。総会では役員改選が議決され、本県の佐伯伸会長が副会長（九州支部長）に就任されました。また、秋田剛会長が退任され、新会長には菊地隆氏が就任されました。

第２日目は、「学校組織マネジメント」「業務の改善と効率化」「今日的課題への提言」をテーマに３つの分科会に分かれて研究発表がありました。各分科会とも午前中は各県の研究発表があり、午後からは基調講演・シンポジウム・グループ討議が行われました。参加者は各分科会とも熱心に発表に聞き入っていました。なお、本県からは第２分科会で「ワークライフバランス～意識を変える～」という研究発表を筑豊地区が行いました。関係者の皆様、お疲れ様でした。

また、功労者表彰式では、本県から16名の方が表彰されました。

来年度は、令和２年７月29日（水）～７月31日（金）の日程で愛知県名古屋市で開催されます。

兵庫大会実行委員長挨拶

全国協会議長団

第72回全国公立高等学校事務職員研究大会　特別分科会報告

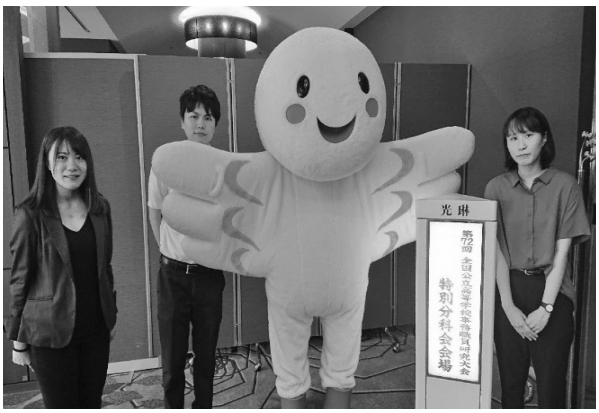
戸畑工業高等学校　廣吉　真一
八幡高等学校　柴田　碧
春日高等学校　北原　里紗

私たち３名は、第72回全国公立高等学校事務職員研究大会（兵庫大会）特別分科会に参加する機会をいただきました。この特別分科会は、通常の分科会に加え、次世代の人材育成と経験等の継承を目的に試行的に開催されたものです。具体的には７月24日から25日までの２日間の日程で、全国100名の若手職員が集まり、「これからの学校事務職員に期待されるもの～いま、私達若手職員が引き継ぐべきもの～」というテーマで講演のあとグループ討議を行いました。

基調講演として、北海道札幌国際情報高等学校事務長　岩崎　英樹氏より「経験の仕方を考える」、「事務職員のやりがいを考える」という二つの内容で講演をいただきました。初めに、事務長の責任として、「取る責任」と「果たす責任」の２つがあり「取る責任」は、管理監督責任であり、「果たす責任」は部下の育成であるという事でした。部下の育成において最も重要なことは経験であり、根拠を知って正しく事務処理をする経験が大切であるとのことでした。次に、開校準備室でのお話がありました。開校まで６か月間しかない中、教員と事務職員が連携し様々な課題を解決する中で、やりがいを感じたとのことでした。

２日目は、５人１組20班に分かれてのグループ討議でした。内容は、経験の仕方と事務職員のやりがいについてでした。経験の仕方に関する意見は、失敗をすること、疑問を持ちそのままにしないこと等が挙げられました。若手職員の最大のメリットは、失敗できることです。まだ、若いうちに失敗を恐れずに多くのことに挑戦することで成長につながると感じました。事務職員のやりがいについては、少人数のチームで仕事ができることや様々な知識が増えたとき等が挙げられました。全国の事務職員と交流する中で、それぞれがやりがいを見い出し仕事に取り組んでいることがわかりました。やりがいを見つけるのが難しい中、多くの人と交流できたことでよい刺激となりました。

近年、AI化や様々な技術が進み、多くのものが自動化されつつあります。学校事務職員の仕事も例外ではなく、数十年後はAI等に代替される可能性が高いといわれています。そのような現状で、個人個人がやりがいを見つけ、目的意識を持ち、AIに代替されないものにしていくことが大切であると感じました。



グループ討議の様子